

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

④ 公開特許公報 (A)

昭57-119056

⑨ Int. Cl.³

E 04 F 15/04

識別記号

庁内整理番号

2101-2E

⑥ 公開 昭和57年(1982)7月24日

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑤ 床材の一部貼替え方法

⑦ 発明者 藤田清臣

門真市大字門真1048番地松下電
工株式会社内

⑧ 特 願 昭56-5347

⑧ 出 願 昭56(1981)1月15日

⑧ 発明者 藤原保三

門真市大字門真1048番地松下電
工株式会社内

⑦ 出 願 人 松下電工株式会社

門真市大字門真1048番地

⑧ 代 理 人 弁理士 石田長七

明 細 書

1. 発明の名称

床材の一部貼替え方法

2. 特許請求の範囲

(1) 床に既設の床材の一部を除去し、除去され
た床材に隣接していた両床材の隣接面細面に沿つ
て、端部を切欠し、新しい床材の内側細面に沿
て、設けられた凹所内に接着性合成樹脂を注入し
こ、新しい床材を除去された床材のものと位置
嵌込み、この嵌凹所内の接着性合成樹脂を固化
させて隣接する床材の端部と嵌合する端部とを
形成することを特徴とする床材の一部貼替え
法。

(2) 床材の端部と端部及び端部と端部を一定ピッチ
規則的な形状に形成することを特徴とする特許
請求の範囲第1項記載の床材の一部貼替え方法。

発明の詳細を説明

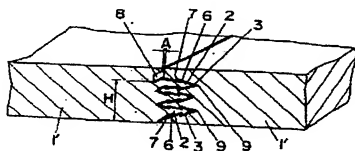
本発明は床材の一部貼替え方法に関する。

従来床材の床材(1)'にあつては、第1図に示す

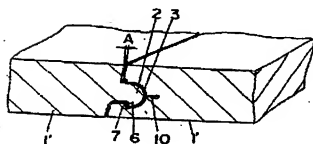
ように、両面材の凹状の嵌合部(1)を持つ端部と
端部(2)と内面材の凹状の嵌合部(1)'を持つ端部
とを嵌合させることにより床材(1)'間を連続
して床に敷設されてあり、しかも嵌合部(1)と嵌
合部(1)'とが互いに平行に面着して嵌合すること
により床材(1)'間の隙間Aが最小になるようにして
あつた。また、端部と端部(2)の上に設けた凹所(3)に
釘穴を設けることによりつて釘の効く厚みを大き
くし、釘の効きを良くしてあつた。また端部と端
部(2)の底に接着剤(4)を塗布しておいて端部と端
部(2)の嵌合面を大きくすると共に、床下
からの湿気漏れを防止してある。

また、別な接着体床材の床材(1)'にあつては、第
2図に示すように、床材(1)'側の端部と端部(2)と床
材(1)'他側の端部と端部(2)とを嵌合させ、端部と端部(2)
下面の嵌合部(1)'と、端部と端部(2)下面の嵌合部(1)
に平行な嵌合部(1)'とを嵌合させて床材(1)'間の隙
間Aを最小にして床材に連続してあつた。また、
端部と端部(2)の底には釘穴を設けてあつて、
端部と端部(2)と端部と端部(2)に嵌合させると共に端部

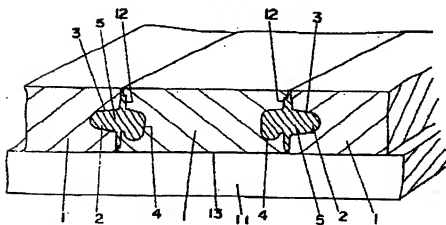
第 1 圖



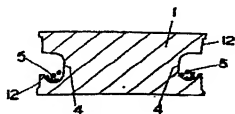
第 2 圖

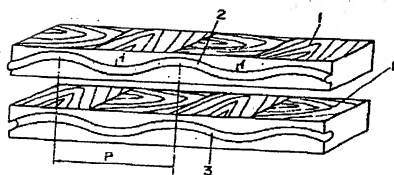


第 3 圖



第 4 圖





第 6 圖

